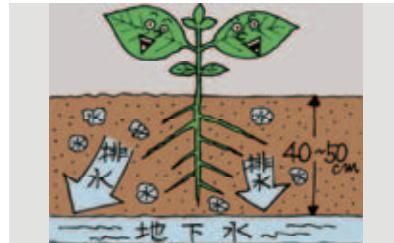


良い大豆をつくるための14か条

大豆作のポイント 1 排水

地下水位は40~50cmが適当です。



地下水位が高い場合やその他の条件で過湿(滞水)になりやすい土壌は、暗きよまたは明きよ排水が必要です。クローラトラクターとレーザサブソイラを利用すると一定の傾斜を付けた排水性の良い暗きよができます。

大豆作のポイント 3 耕起

土の締まったほ場では反転耕が有効です。



スキ・プラウなどの深耕により土壌を反転させ、雑草・有機物・刈株などを埋没させて土の若返りを促進すると共に、通気性・透水性に優れた良い土壌をつくり、大豆の安定・多収に役立たせます。

大豆作のポイント 5 播種準備

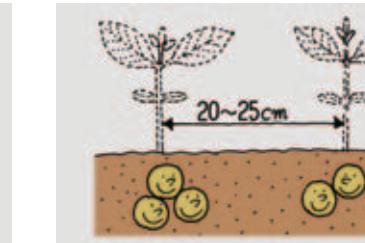
良い種子をそろえましょう。



良い大豆をつくるには、良質の種子を選択することはもちろん、紫斑病の予防などに注意することが大切です。

大豆作のポイント 7 播種

播種は株間20~25cmで、種子量2~3粒の点播が最適です。



大豆播種の1株粒数は1~2立本が最適ですが、実際には1~2割程度多い目の2~3粒の点播で、10a当たり5~7kg(約1.1万~1.4万株)播種します。

大豆作のポイント 9 中耕・培土

播種直後に除草剤散布し、3~4週間頃を日安に第1回目の中耕・培土をし、開花始めまでに2~3週間に2~3回行います。



雑草の発生を抑え、空気・水の透通を良くし、干害や湿害を防止します。また、根部の発育を促して茎葉の生育を盛んにします。

大豆作のポイント 11 防除

適切な病虫防除が必要です。



大豆の収量を支配している要因の中で、病虫害防除が大きなウエイトを占めています。大豆作を多収・安定作物にするためには、適切な防除が必要です。防除は開花期に茎葉の中に散布することが最も重要で、噴口の位置を下げて散布してください。なお、これらの防除のためには、各都道府県ごとに使用薬剤と使用基準が設定されています。

大豆作のポイント 13 脱粒

子実の水分が20%以下・茎水分が50%以下の条件で脱粒します。



刈取後は場乾燥を行い、子実水分が15~18%ぐらいで脱粒します。

時期

主要作業

4月

上 石灰散布

3月

中 堆肥散布

5月

下 施肥起立

6月

上 種選種・消毒

7月

中 除草剤散布

8月

下 播種・移植

9月

上 中耕・培土

10月

中 (大培土)寄せ

11月

下 (開花期)防止

12月

アブランジ

1月

病害虫防除

2月

病害虫防除

3月

上 収穫

4月

中 コンバイン刈取り

5月

下 脱粒

6月

乾燥調製

大豆作のポイント 2 施肥・土壤改良

大豆好みの肥沃な土壌をつくりましょう。



大豆のカルシウム吸収量は非常に多く、また、酸性土壌を好みません。従って最適な酸度pH6.5(弱酸性から中性)程度を保つことと、カルシウム補給を目的に、耕起前には必ず石灰を散布します。

大豆作のポイント 4 破土・整地

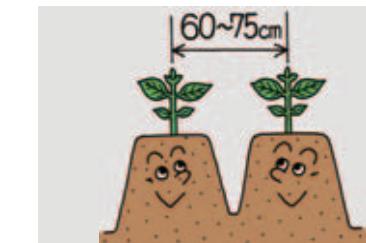
堆肥散布・碎土・整地で、うね立て・播種床の準備をします。



大豆の発芽は土壌の温度(通気性)によって大きく影響を受け、後の生育にも影響を及ぼします。特に土力オリナイト系の土壌には、雨による土膜ができないように、表面に堆肥・麦稈等の有機物を混和しましょう。全面散布した堆肥・石灰を土壌に混入、攪拌し、さらに碎土・整地をかねて播種床づくりを行います。

大豆作のポイント 6 播種

適期播種と10a当たりの栽培本数が決め手です。1.1万~1.4万本が最適です。



条間は60~75cm(株間は20~25cm)が標準です。10a当たり300kgが収穫目安。1本当たりの収量は25~30gが目標となります。10a当たりの栽培本数は、うね幅70cmで1株2立本の場合、株間25cm:11,000/10a、株間20cm:14,000/10a。

大豆作のポイント 8 播種・施肥

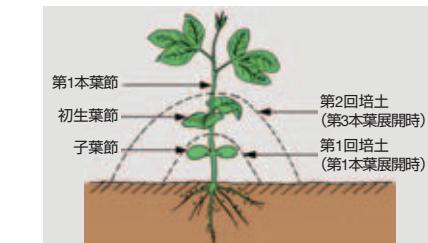
播種後、土壌に合わせて適当な肥料を施肥します。



播種後または播種と同時に、不足している養分を施肥します。施肥には条施肥と全面施肥があります。条施肥する場合は、発芽障害を防止するため、肥料が種子の下方の場合には3cm以上、肥料が種子の横の場合には5cm以上をそれぞれ離さなければなりません。

大豆作のポイント 10 中耕・培土

適期の培土が必要です。



上図の時期に培土することによって、新根の発達と根系の発達・倒伏の防止・土壌中の水分調節・雑草の防除などにより、増収に役立ちます。なお、最終の培土が終わった際のうね高さは、刈取機の作業からみて20cm程度にとどめることにします。

※コンバイン刈取時の培土では土の重さを考慮して、うね高さを20cm程度にとどめます。

大豆作のポイント 12 収穫

落葉し、莢の中がカラカラ音を立てはじめたら収穫。



●ピンハーベスターでの刈取りは、莢の水分が20%前後で裂莢の少ないAM6:00~AM10:00または、PM4:00~PM7:00の間に実行すると効果的です。

●汎用コンバインでの刈取りはAM11:00~PM4:00までの間に、莢の水分が20%前後、莖水分60%以下で刈取ります。

大豆作のポイント 14 調製

等級は3段階、粒径は4段階の検査規格があります。

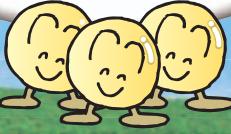


検査規格が高等級のものほど売渡し価格が高く、粒径も大粒・中粒・小粒・極小粒の4段階に分かれ、それぞれ価格が異なりますので、選別・選粒することによって粒径をそろえることが大切です。

ヤンマー大豆作機械化システム

ヤンマーは、土づくりから乾燥・調製まで、豊富な品揃えと独自の技術でサポートします。

規模に合わせた
機械化体系については、
お近くのヤンマー販売会社、
JAまでご相談ください。



土づくり

排水対策

■溝掘機 明きよ
適応馬力:20PS~
作業深さ:15~100cm



■サブソイラ 暗きよ
適応馬力:16~50PS
作業深さ:25~50cm



■疊水材芯土充填機(モミサブロー) 初ガラ
暗きよ
適応馬力:30PS~
作業深さ:30~55cm



土壤改良剤散布・施肥

■ライムソーワー 土壤改良剤散布
適応馬力:10PS~
散布幅:1.2~3m



■マニアスプレッダ 有機物投入
適応馬力:13PS~
散布幅:1.5~10m



■有機肥料散布機 有機物投入
適応馬力:13PS~
散布幅:3~6m



■プラソイラDX 耕起
適応馬力:25~60PS
作業深さ:45cm



中耕・培土

中耕ディスク

型式:DC301シリーズ
適応馬力:30~51PS
適応うね幅:60~85cm
標準耕幅:25~44cm



乗用管理機

型式:HVシリーズ
装着作業機:ロータリーカルチ・
イエロー培土器
エンジン出力:17~21PS

作業条数:2~3条



畑用アグリカ

+2連中耕ロータリー
型式:A-10GH+RB40TAH
耕幅:360~240mm



1輪管理機

+アポロ培土器
+大豆中耕爪輪
型式:SK35E
+アポロ培土器S
+大豆中耕爪輪



収穫

大豆刈取機

型式:YBR450,C

エンジン出力:3.8PS
刈取幅:1535mm



普通型コンバイン(大豆コンバイン)

型式:GS380
エンジン出力:38.4PS
刈幅:2060~2590mm



汎用コンバイン

型式:AG1100
エンジン出力:110PS
刈幅:2060~2590mm
(大豆用アタッチメント)ビーンキットB-1100-K



調製

脱粒

大豆脱粒機(定置式)

型式:BT352
エンジン出力:3.8PS



大豆脱粒機(自走式)

型式:PBTシリーズ
エンジン出力:6.0・6.5PS



調製

大豆選別選粒機

型式:YBSシリーズ
作業能率:1400~2000kg/時



乾燥

汎用乾燥機

型式:MC-45A

処理量:300~480kg/時



防除

乗用管理機

型式:GV191(X)
エンジン出力:18.9PS
散布幅:15.6m



無人ヘリコプター

型式:AYH-3
最大積載葉剤量:24L
吐出方式:アトマイザ方式



ヤンマー株式会社

〒530-8311 大阪市北区茶屋町1番32号
<http://www.yanmar.co.jp>



このカタログの仕様は、改良などにより、
予告なく変更することがあります。

安全に関するご注意

- ご使用の際は、取り扱い説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
- 無理な運転は商品の寿命を縮め、故障・事故の原因となることがあります。
- 故障・事故を未然に防止するため、定期点検は必ずおこなってください。

●商品についてのご意見、ご質問は下記へ

播種・移植

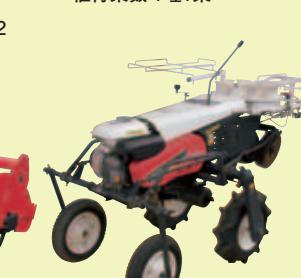
■不耕起播種機 播種
型式:NSV601
適応馬力:50PS~
条数:6条



■アッパーロータリー 播種
+けん引型目皿シーダ
(耕うん同時にね立て播種)
型式:APU1710H-0SU+MDR-2
条数:2条



■汎用野菜移植機 移植
型式:PN1A
植付条数:1畦1条



無人ヘリコプター

型式:AYH-3
最大積載葉剤量:24L
吐出方式:アトマイザ方式



この印刷物は植物性大豆油インキを使用しています。